

オリパラ基本推進調査

（ホストタウン連携交流促進事業のうち
「海外におけるホストタウン推進調査」）

成果報告書

東武トップツアーズ株式会社

令和2年3月

目 次

第1章	調査の概要	
1.	調査の目的	03
2.	実施内容	
	(1) 調査対象自治体の選定	03
	(2) 調査対象自治体からの参加者の旅程の手配等	04
	(3) ブースでのホストタウン情報発信展示の手配等	04
	(4) 関係者との面会に関する移動手段及び通訳の手配等	04
	(5) ブース出展等に関する広報対応	04
	(6) 事業の管理及び支援並びに事後のフォローアップ	05
	(7) 成果のとりまとめ	05
第2章	調査対象プロジェクトの実施報告	
1.	調査対象プロジェクトの概要	06
2.	各調査対象自治体によるブース展示の実施報告	
	(1) 全体	08
	(2) 共通ブース	10
	(3) 山梨県、富士吉田市、富士河口湖町	11
	(3) 鎌倉市、豊岡市	15
	(4) 金沢市、高山市	18
3.	関係者との面会概要	20
4.	ブース出展等に関する広報対応概要	23
第3章	調査結果の総括	
1.	成果分析の概要	
	(1) ブース出展	29
	(2) ブース出展等に関する広報対応	29
2.	各調査対象プロジェクトの効果	
	(1) 自治体の展示効果	30
	(2) 事業実施により達成できた目標	30
	(3) フランス国内、その他欧州地域への波及効果	30
	(4) 2020年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与	30
	(5) 日本国内の他ホストタウンへの普及・展開方策	31
3.	他地域への普及・展開に向けた課題	
	(1) ブース出展	31
	(2) ブース出展等に関する広報対応	31

4.	他のホストタウンへの普及・展開に向けた提案	
	(1) ホストタウン自治体内での組織横断的な取組	32
	(2) 自治体同士の連携	32
	(3) 海外への情報発信の強化	32
5.	好事例	
	(1) 神奈川県鎌倉市	33
	(2) 石川県金沢市	35
	(3) 山梨県	35
	(4) 山梨県富士吉田市	36
	(5) 山梨県富士河口湖町	37
	(6) 岐阜県高山市	38
	(7) 兵庫県豊岡市	39
	(8) 自治体共通	41
○	参 考	
	アンケート関係資料	42

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京大会」という。）に向けて、大会の効果を開催地東京だけでなく、日本全国津々浦々にまで行き渡らせ地域活性化等に繋げるため、政府は、ホストタウンの取組を推進している。

今後は、東京大会のレガシーとなる取組として海外での効果的な情報発信が必要となっており、2024年の夏季オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2024年大会」という。）の開催地であるフランス・パリ市において令和元年7月に開催された「Japan Expo 2019」に、フランスを相手国とするホストタウン自治体と連携して出展することで、来場者を対象に、日本発のホストタウンの取組を情報発信することとした。

相手国・地域へのホストタウンの取組等についての情報発信を行うことは極めて重要であり、対外的な情報発信の効果的な手法について、本調査を通じてモデル的な手法を検討するものである。

さらに、2024年大会の開催国であるフランスの関係者に対し、ホストタウン制度の仕組みをアピールし、次回大会においてもレガシーとして引き継がれ、ホストタウンが恒久的な仕組みとなるよう働きかける。

2. 実施内容

(1) 調査対象自治体の選定

本調査の実施にあたっては、フランスを相手国とするホストタウン自治体のうち、7月4日～7日に開催されるJapan Expo 2019に出展し、フランスでのホストタウンに関する情報発信を行う自治体について、以下の点に基づく提案を受け付け、その内容を考慮し調査対象の7自治体を決定した。

a. Japan Expo 2019でのホストタウンブース（以下「ブース」という。）での展示企画

b. ブースで放映するホストタウン交流に関する映像コンテンツ等の作成

※映像コンテンツの内容については、今までのホストタウン交流や、今後の交流計画などを含んだものにする。特に、既に日本国内で事前合宿等を行っている調査対象自治体は、フランス選手とホストタウン自治体の住民との交流の様子など、具体的な交流の内容を映像化する。

c. 共同出展するフランスの地方自治体の展示内容

以上を踏まえ、下記に挙げる 7 自治体を調査対象自治体として選定した。

- ・神奈川県鎌倉市
- ・石川県金沢市
- ・山梨県
- ・山梨県富士吉田市
- ・山梨県富士河口湖町
- ・岐阜県高山市
- ・兵庫県豊岡市

（２）調査対象自治体からの参加者の旅程の手配等

（１）で選定した調査対象自治体に対し、パリで開催された Japan Expo2019 への出展に係る渡航手続き及び手配を行った。

国際航空券について、往路は他参加団体により混み合っており羽田及び成田空港発のフライトの確保が出来ず、関東近郊の自治体を含めた全員が関西国際空港からの出発となり、復路は各自治体利便性の良い空港を選択し、羽田空港または関西国際空港着のフライトに分かれての帰国となった。また、自宅と空港までの移動については、各自にて手配を行った。

宿泊は、出展会場までパリ郊外線の直通でアクセス可能な宿泊施設にて手配を行った。

（３）ブースでのホストタウン情報発信展示の手配等

Japan Expo2019 への出展申込みは、日本国内で唯一の Japan Expo 事務局の代理店を通して手続きを進めた。ブースでの情報発信のために必要な備品や什器の手配は、現地の企業に依頼した。

また、ホストタウンの取組を効果的に発信するためのブースのレイアウトデザインや施工はこれまでホストタウン展示等の実績を有する企業に依頼をした。

（４）関係者との面会に関する移動手段及び通訳の手配

ホストタウンの交流を広く周知するため、フランス国内の関係組織を訪問し、取組を説明及びヒアリングを実施した。その際の移動手段や通訳の確保を行った。

（５）ブース出展等に関する広報対応

Japan Expo2019 に出展しホストタウンの情報発信を行った取組をフランス国内に広めるために、現地仏系メディアに記事を取り上げてもらうことで広報支援を行った。

本件では、「ZOOM JAPON」、「JAPON INFOS」及び「TIMEOUT」の三紙からの取材を受け、記事掲載に至った。

（６）事業の管理及び支援並びに事後のフォローアップ

調査事業受託会社である東武トップツアーズから２名を同行させ、現地までの移動から、ブースの搬入・施工や出展のサポートを行った。また、ブース訪問者と調査対象自治体職員がスムーズにコミュニケーションを図れるよう通訳を手配した。

（７）成果のとりまとめ

本調査において実施した JAPAN EXPO への出展の成果をもとに、全国各地のホストタウンにおける取組を促進していくため、調査対象プロジェクトの課題や好事例を整理し、成果としてとりまとめた。

第2章 調査対象プロジェクトの実施報告

1. 調査対象プロジェクトの概要

(1) Japan Expo2019 開催概要

名称：Japan Expo2019

会期：令和元年7月4日（木）～7月7日（日）の4日間（7月3日は搬入日）

会場：Parc des Expositions de Paris-Nord Villepinte

（パリ・ノール・ヴィルパント展示会場）

総面積：14 万平米

来場者数：25 万 2,510 人

出展ブース数：798 団体（うち日本からの出展は 234 団体）

Japan Expo は JTS GROUP 主催により 2000 年からフランスのパリやマルセイユで開催している日本文化の総合博覧会であり、漫画・アニメ・ゲーム・音楽などのポップカルチャーや、書道・武道・茶道・折り紙などの伝統文化、そして観光や食文化を含む総合的な日本の文化を世界に広く発信出来るヨーロッパ最大の展示会である。

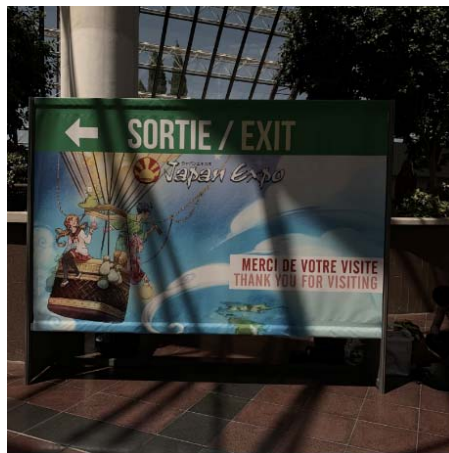
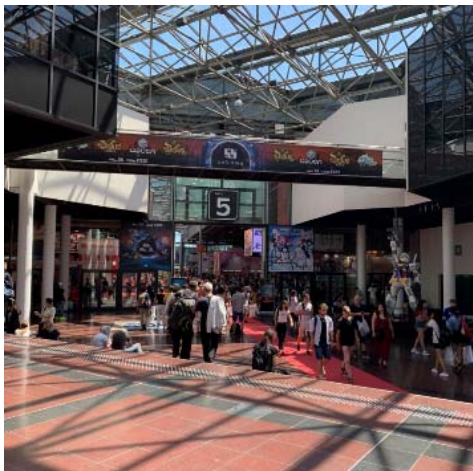
今年度で第 20 回目を迎え、主催者からの正式な発表によると 4 日間の来場者は 25 万人を超え、過去最大となった。

本件で出展した「観光エリア」は 2018 年からの新設エリアとなり、日本政府観光局（JNTO）をはじめ、自治体や観光関連業者により観光情報を発信する場となっている。

<会場外観>



<会場入口周辺>



<木寺駐フランス日本国大使及び
主催団体のシルデ共同代表のブース訪問>



<日本文化イベントの様子>



<観光エリア>



（２）スケジュール

下記スケジュールにて調査対象プロジェクトを実施した。

■ 日程

- 7月2日（火） 日本出国、パリへ移動
- 7月3日（水） 会場設営・準備、関係者訪問
- 7月4日（木） JAPAN EXP02019 対応、関係者訪問
- 7月5日（金） JAPAN EXP02019 対応、関係者訪問
- 7月6日（土） JAPAN EXP02019 対応
- 7月7日（日） JAPAN EXP02019 対応
- 7月8日（月） フランス出国
- 7月9日（火） 日本帰国

2. 各調査対象自治体によるブース展示の実施報告

（１）全体

本件の調査事業では、1小間6平米（横3m×奥行2m）を4小間配置したブース（周囲全体が通路に囲まれており、来訪者を受け入れやすいブース）を手配し、うち1小間はホストタウン事業説明を掲示する共通のブースとした。他ブースは、「山梨県・富士吉田市・富士河口湖町」「鎌倉市・豊岡市」「金沢市・高山市」の3小間に分かれて、ホストタウン活動の情報発信を行った。

4つのブースにはそれぞれモニターを設置し、ホストタウンの取組や自治体のPR内容をまとめた動画を常時上映した。また、ブース訪問者と調査対象自治体職員とがスムーズにコミュニケーションを取れるよう、各ブースに1名ずつ通訳を配置した。

今回は「観光エリア」での出展となったが、日本政府観光局（JNTO）主催でシールラリーを実施し、観光エリア内を回遊させる仕組みとした。

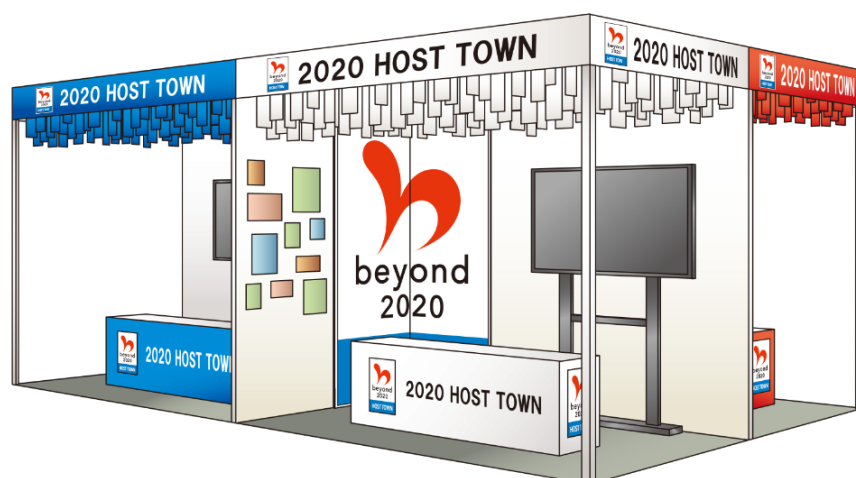
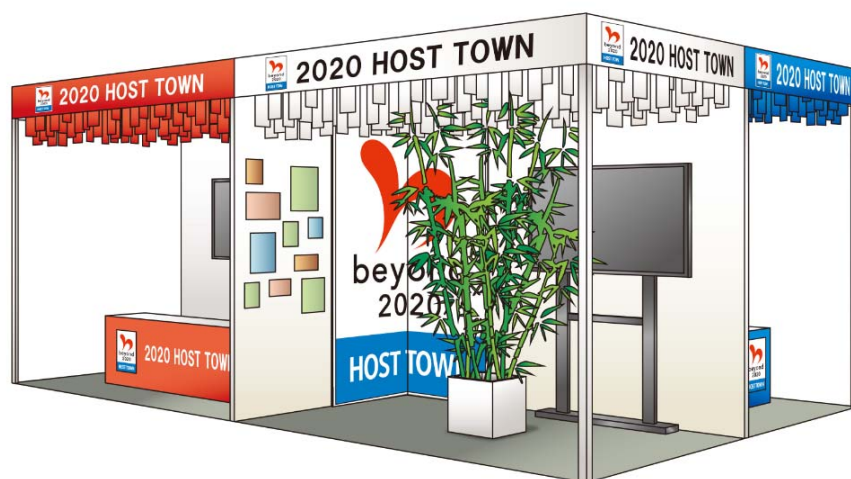
<シールラリー台紙>



<シールラリー・シール>



<ブースレイアウト図>

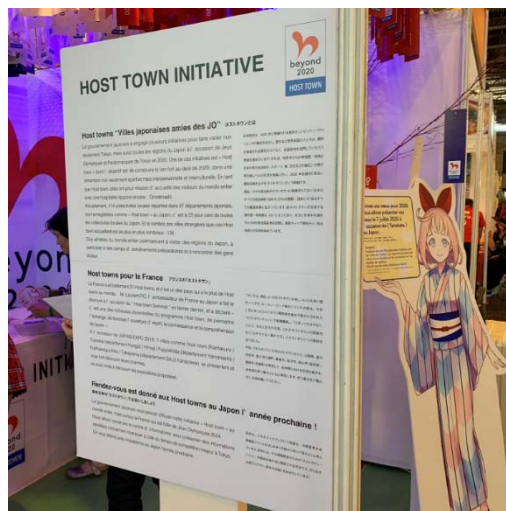


(2) 共通ブース

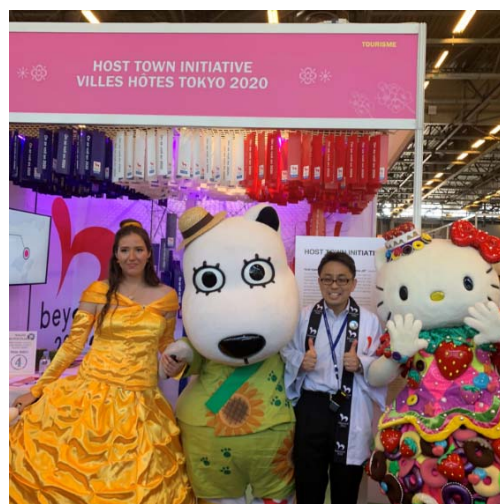
共通ブースでは、ホストタウン事業をフランス語と日本語で説明したパネルを設置し、訪問者を増やす工夫として、開催時期がちょうど七夕の時期であったため、笹と短冊を準備し短冊に願い事を書き込む日本文化体験を出来るブースとした。

また、ホストタウン事業の説明と合わせてアンケート回答を促す要因として通訳を1名常駐させ、より多くのアンケート回収出来るようにした。

<ホストタウン事業及び七夕の説明パネル>



<訪問者の様子>



(3) 山梨県、富士吉田市、富士河口湖町

山梨県内の3自治体の共同ブースとして出展。各自治体からホストタウン交流や自治体のアピールをするためのコンテンツを持参し、配布等を行った。

その一つとして、富士吉田市の特産である宮下織物の生地で作成したフランス国旗を持参し、ブース訪問者からフランスチームや日本に対するメッセージを書き込んでもらい、記入した訪問者に対して富士山の刺繍が入った名刺入れを進呈した。また、山梨県に関するクイズ用紙を配布し、回答してもらうことで、山梨県に関する関心を高める機会にした。

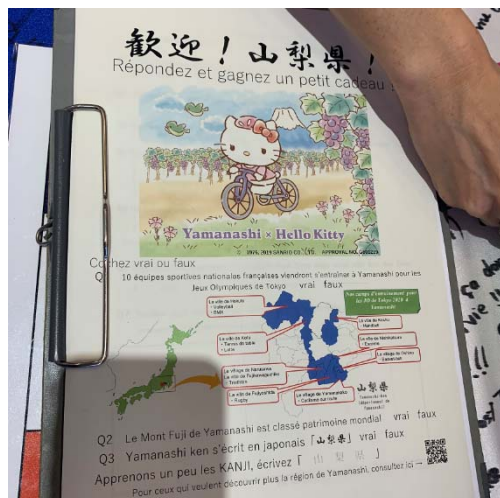
<富士河口湖町の配布物> ※資料の内容は自転車や水泳競技を通じた交流の様子



<掲示物の様子>



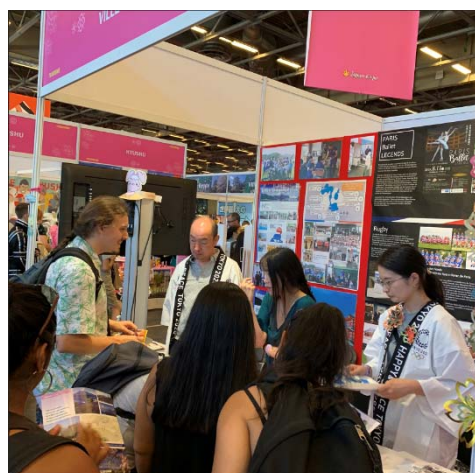
<山梨県に関連したクイズ>



<国旗に応援メッセージ>



<出展の様子>



FUJIYOSHIDA

富士吉田市

Fujiyoshida est la ville hôte pour l' équipe de France de rugby.

Des villes de Fujiyoshida et Chamonix Mont Blanc sont jumelées depuis 1978. En plus d' être le camp d' entraînement de l' équipe de France de rugby, Fujiyoshida entretient des liens forts avec la France dans les domaines de l' économie, de la culture et du sport.

Fujiyoshida est une ville inscrite au patrimoine mondial de l' UNESCO et a été présentée sur la couverture de guide Michelin green guide Japon 2015.

富士吉田市はフランス7人制ラグビー代表チームのホストタウンです。1978年の姉妹都市締結以来、フランスのシャモニー・モンブラン市と友好関係を築いています。ラグビーのフランス代表チームの合宿地としての交流だけでなく、経済・文化・スポーツ等の多方面において子どもたちや市民との交流が続いています。世界遺産のまちで、2015年ミシュラン・グリーン・ガイド・ジャポンの掲載にもなっています。



FUJIKAWAGUCHIKO

富士河口湖町

Fujikawaguchiko est la ville hôte pour l' équipe de France de triathlon.

Fujikawaguchiko est connue pour le Mont Fuji, ses lacs et ses plateaux. Elle reçoit de plus en plus de touristes français et en recevra encore plus avec l' installation de l' équipe de France de triathlon pour JO 2020.

On se voit très bientôt, en 2020 à Fujikawaguchiko !

富士河口湖町はアスリートアスロン代表チームのホストタウンです。富士山と湖と高原のまちです。アスリートアスロン代表チームが事前合宿に来てくださることでフランスからのお客様が増えました。おかげさまで、2020年富士河口湖町で会いましょう！



YAMANASHI

山梨県庁

La préfecture de Yamanashi est une ville hôte pour les équipes françaises de lutte, de rugby à 7, de beach-volley, de handball, d'escrime, de basket-ball, de tennis de table et de triathlon dans différentes parties de la préfecture.

Il y a aussi un point commun qui brasse le vin, de nombreux joueurs français visitent et promeuvent les échanges sportifs et gastronomiques.

山梨県では県内の各地でフランスのレスリング、7人制ラグビー、ビーチバレー、ハンドボール、フェンシング、バスケット、卓球、トライアスロンの代表チームのホストタウンです。ワインを醸造しているという共通点もありフランスの選手が夢中になれるスポーツ、食を通しての交流を盛めています。



（４）鎌倉市、豊岡市

鎌倉市と豊岡市の２自治体共同ブースとして出展。姫路市はパネル展示のみの参加となった。また、在パリの兵庫県事務所が、県内自治体である豊岡市、姫路市説明のサポートを行った。

鎌倉市はフランスセーリング連盟、豊岡市はフランスボート連盟の強化合宿を受け入れており、それぞれホストタウンとなった経緯や活動の様子をブースにて展示し、訪問者に対し説明した。また、両自治体とも日本文化を豊富に有していることから、鎌倉市は神社仏閣などの伝統的文化を、そして豊岡市は代表的な温泉地である城崎温泉を紹介し、自治体の魅力も合わせて情報発信した。

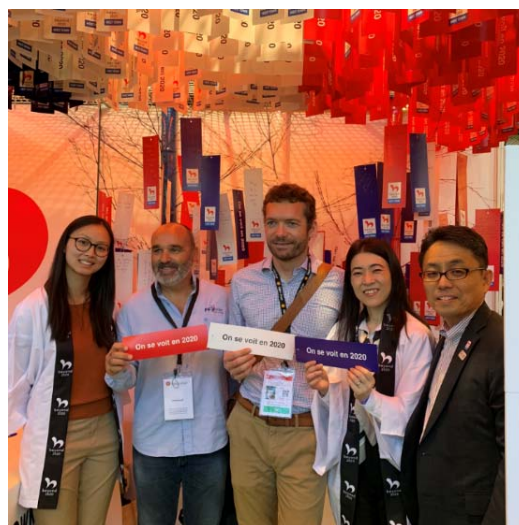
＜出展の様子＞



＜国旗に応援メッセージ＞



＜フランスセーリング連盟の訪問＞



KAMAKURA

(département Kanagawa)

鎌倉市

Kamakura, située dans le département de Kanagawa est la ville hôte de l'Équipe de France de voile.

Forte de son héritage historique et de son environnement pittoresque, Kamakura est une ville très fréquentée par les touristes. Elle partage de nombreuses similitudes avec sa ville jumelle Nice avec qui elle a signé un partenariat il y a plus de 50 ans.

En tant que ville hôte, la ville apporte son soutien à l'Équipe de France de voile et profite de leur venue pour organiser des moments de rencontre et d'échanges avec ses habitants.

De plus, elle promeut la langue et la culture française à travers de nombreux événements comme des ateliers lecture.

Afin de comprendre les règles de la voile, les habitants seront prochainement invités à regarder un entraînement de l'Équipe de France sur l'eau avant de pouvoir échanger avec les athlètes sur la terre ferme.

神奈川県鎌倉市はフランスのセーリング代表チームのホストタウンです。フランスのコース市と鎌倉市は歴史的関連を持つ歴史ある観光都市として両通点が多いことから、姉妹都市提携を締結し、以後50年にわたって交流が続いています。ホストタウンとしてフランスセーリング連盟の支援、保健室や学校での選手と子ども達との交流市民を対象としたフランスの絵本を使用した文化理解講座などを実施しています。2019年にはクルーザーに黒船、セーリングチームの練習船等も選手との交流会なども企画しています。



TOYOOKA

(département Hyogo)

豊岡市

Toyooka est la ville hôte qui accueille l'équipe de France d'aviron.

La ville de Toyooka est connue pour sa source chaude (Onsen) Kinosaki qui date de 1300ans. La vieille ville de Toyooka est composée d'un alignement de bâtiments de 2 étages en bois, ainsi que 70 ryokans (hôtel typique japonais) dans un rayon de 400mètres.

M. Xavier Dolfman, l'entraîneur de l'équipe du Japon d'aviron a déjà visité le camp d'entraînement en avril 2017, et échangé avec des locaux.

En 2020, la ville de Toyooka organisera des rencontres avec l'équipe de France d'aviron.

兵庫県豊岡市はフランスボート代表チームのホストタウンです。豊岡市は1300年の歴史ある城崎温泉を有し、木造3階建ての建物が軒を連ね、平均400m間隔に70軒もの和風旅館が並びます。国に日本代表コートである千代田・ドムアマンコートは2017年4月に本代表強化会館のために建てられ、地元市民との交流を促しています。また2020年にはフランスボート代表チームとの交流も予定しています。



HIMEJI

姫路市

Himeji est la ville hôte qui reçoit l'équipe de France de judo.

M. Mikinosuke KAWAISHI, judoka originaire d'Himeji est appelé « Le Père du judo français ».

Himeji renforce les échanges entre les deux pays au travers du judo en se focalisant sur les enfants.

姫路市はフランスの柔道代表チームのホストタウンです。姫路市出身の柔道家「川島静雄」は「フランス柔道の父」と呼ばれています。交流を通じて特に子どもたちの交流の力を果たしています。



※姫路市はパネル展示のみの参加。

(5) 金沢市、高山市

金沢市と高山市の2自治体共同ブースとして出展。金沢市はフランス水泳代表及びチームウェイトリフティング代表、高山市は陸上競技連盟の強化合宿を受け入れており、その活動内容についての説明をブースで行った。今回参加した両自治体の職員はフランス語が堪能だったため、通訳を介さずに来訪者とコミュニケーションを取っている機会も多かった。また、歴史と伝統文化が根付く観光資源もアピールする機会となった。

<出展の様子>



KANAZAWA

(département ishikawa)

金沢市

La ville de Kanazawa dans le département d' Ishikawa est la ville d' accueil pour les équipes de France de Natation et d' Haltérophilie.

C' est notamment grâce à ses échanges avec la ville de Nancy depuis 1973, ainsi que ses participations et son accueil des Rencontres Franco-Japonaises de la Coopération Décentralisée que Kanazawa a été désignée Host Town.

En 2017, lors d' un stage de l' Eau Libre Française, la ville a organisé des cours de piscine pour des enfants de Kanazawa permettant d' approfondir les échanges avec les nageurs Français, ainsi que des activités de découvertes culturelles pour la délégation, telles que qu' une excursion en kimono et une cérémonie du thé.

Il se trouve qu' en ce moment-même les équipes de France de Plongeon, d' Eau Libre et de Natation Course sont en préparation des Mondiaux à Kanazawa, ainsi que l' Haltérophilie, qui est présente en stage de repérage.

Venez découvrir la Ville de Kanazawa, connue pour son harmonieux mariage de la tradition et de la modernité.

石川県金沢市はフランス水泳代表チームウエイトリフティング代表チームのホストタウンです。1973年から続くフランス・アンジエール市との交流や自由公民会文化交流会連年の開催からホストタウンになりました。2017年に打ち出た水泳・オープンウォーター・スイングチームの合併では、子どもを対象として水泳教室を開催し、交流を深めた。交流発展の機会や開催などの文化交流を深めていくことも期待する。現在は日本フランスの水泳チームウエイトリフティングチームが金沢市で合宿をしています。伝統と発展の両輪がけられたまち金沢の発展に協力していきます。



TAKAYAMA

(département Gifu)

高山市

Takayama est la ville hôte pour l' équipe de France de course à pied.

A l' occasion du Championnat du monde d' athlétisme, Mehdi Baala (coureur de 1500M) et Bouabdallah Tahrir (coureur de 3000M obstacle) avaient leur camp d' entraînement au terrain élevé de Hida Ontake. C' est une des raisons pour lesquelles, Takayama est la ville hôte de l' équipe de France de course à pied.

Takayama est une des capitales culturelles du Japon, possédant toujours l' atmosphère de l' ère EDO, et qui accueille Takayama Matsuri (une des 3 grandes fêtes au Japon).

岐阜県高山市はフランス陸上競技代表チームの陸上競技選段と併結しています。陸中に伴う陸の環境も注目しています。ホストタウンです。2017年の世界陸上の時に1500mのメディ・バアラ氏と3000m障害のブアブダ・タハリ氏が陸上競技場をトレーニングエリアで事前合宿をしたことが縁でホストタウンとなりました。江戸時代からの歴史を残す古い町並みや日本三大美濃と呼ばれる高山漆器など、歴史と伝統文化が息づく町です。アスリートによる地元学生へのタリメンタリ指導や文化交流活動を行っています。



3. 関係者との面会概要

(1) フランス・パラリンピック国内委員会

日時：7月3日 9時30分～10時30分

訪問相手：M. Elie PATRIGEON, directeur general

M. Jean Minier, chef de mission Paralympique a Tokyo

本調査事業に同行した内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 荒井参事官からホストタウンの概要とこれまでの取組について説明。

フランスからは10競技15連盟がパラリンピックに出場予定で、いずれも大会前の時差調整のため直前キャンプを行うが、日本国内での事前の合宿は予定していないことや個別自治体との調整状況について説明頂いた。



(2) フランス・オリンピック国内委員会

日時：7月3日 11時～12時30分

訪問相手：M. Denis Masegla, President

M. Andre-Pierre GOUBERT, directeur de pole Olympique et Haut niveau

内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 荒井参事官からホストタウンの概要とこれまでの取組について説明。

ホストタウン制度をぜひフランス国の2024年大会のモデルとしたいとの表明があった上で、各競技団体の事前合宿についてオリンピック委員会として調整を進めている状況についての説明があった。

また、直前に「競技の大地 (Terre de Jeux)」というホストタウン制度類似の地方自治体を巻き込む仕組みが開始されたことについての紹介があった。



(3) 2024 パリ大会組織委員会

日時：7月3日 14時00分～15時00分

訪問相手：M. Johann Pellicot, NOC/NPC Directeur

Mme. Sophie Lorant, Directrice

内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 荒井参事官からホストタウンの概要とこれまでの取組について説明。

2024大会にとって大変参考になった、開催国の人が開催国以外の国や地域を応援する仕組みだと分かり感銘を受けた、とのコメントがあった。

(4) 2024 パリ大会担当関係省代表

日時：7月4日 14時30分～15時30分

訪問相手：Monsieur Luc ALLAIRE, Delegeue adjoint interministeriel aux Jeux

Olympiques et Paralympiques

Monsieur Nathanael BRUSCHI, Conseiller de Monsieur Jean CASTEX

内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 荒井参事官からホストタウンの概要とこれまでの取組について説明。

関係省代表の組織、ミッションについて説明があり、日本の内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局に相当する組織であることが改めて分かった。パリ大会でも、パリ周辺の複雑な自治体間調整、フランス全土を巻き込んでフランスとして盛り上げていくことが課題であることの説明があった。



(5) アソワヌ上院仏日友好議連会長

日時：7月4日 16時15分～17時15分

訪問相手：M. David Assouline 上院議員（上院仏日友好議連会長）、他

内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 荒井参事官よりホストタウンの概要とこれまでの取組についてご説明。

Assouline 議員より、素晴らしい取組であり、仏日友好議連議員に説明したいので、後日同じ資料を送ってほしい、とのコメントがあった。上院はフランス国内の「地方」を代表する議会の立場から、2024年のパリ大会をすべてパリで行うのではなく、オールフランスで行うことが重要と考えているとの説明があった。



(6) 在フランス日本国大使館

日時：7月5日 11時～11時30分

訪問相手：樋口次席公使 ほか

ホストタウン施策のPRや2020大会に向けた今後の大使館との連携につき、情報交換を行った。

上記のほか、さらに内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局では、フランス都市連合 (Cité Unies France)、パリ日本文化会館 (MCJP)、パリ・イルドフランス商工会議所、クレアパリ事務所など関係機関も訪問し、ホストタウンのPRを行った。

4. ブース出展等に関する広報対応概要

Japan Expo2019 に出展しホストタウンの情報発信を行った取組をフランス国内に広めるために、現地仏系メディアに記事を取り上げてもらうことで広報支援を行った。

本件では、「ZOOM JAPON」、「JAPON INFOS」及び「TIMEOUT」の三紙からの取材を受け、記事掲載に至った。

「ZOOM JAPON」は紙媒体、「JAPON INFOS」及び「TIMEOUT」はインターネットにてWeb 媒体での記事掲載となった。

(1) ZOOM JAPON

<日本語訳>



東京2020オリンピック大会 ホストタウンの観光案内がジャパンエキスポに集結！

日本では 400 を超す地方自治体が来年の東京オリンピック・パラリンピック大会に世界各地から来日する代表団を受け入れる準備を進めている。これを機に日本政府の肝いりで「ホストタウン有志連合」と呼ぶ、注目に値する熱心な活動に着手した。大会よりかなり先立った時点からフランス代表団を受け入れる自治体の認知度を高めようというものだ。

こうして2019年7月初旬に開催されたジャパンエキスポに「ホストタウン有志連合」のダイナミックなチームがやってきた。日本の山梨県および富士吉田、富士河口湖、鎌倉、金沢、豊岡、高山の各市町は今回、フランス国民に向けて自らの存在を知ってもらおう

と目論んでいる。それぞれの市町では2020年大会で順に卓球、7人制ラグビー、トライアスロン、セーリング、ウォータースポーツ、ボート、陸上競技のフランスチームを受け入れることになっている。

ヴィルパント会場の一大ミーティングへの参加者たちは、複数の歓迎ブースで各自治体の観光的な魅力について情報提供する機会を得た。プロジェクトのメインスタンドでは来場

者たちが 2020 年東京大会開催への願いを込めてしたためた色とりどりの短冊が、エキスポ開催期間中、会場中央の天井部から木のように吊るされた。これら短冊は 2020 年 7 月 7 日東京の七夕祭りの際にも吊るされる予定だ。その後は隅田川に投げ入れられて星たちが個々の願いをかなえてくれるのを待つことになる。

出展した自治体は、東京五輪大会のおよそひと月前からフランスのスポーツチームを受け入れる予定の 20 都市の一部だ。代表団のメンバーは大会を前に現地の気候に徐々に順応し、最良のコンディションで競技に臨むことができる。

具体的には、各自治体はフランスのアスリートたちが大会が始まる一週間前に選手村入りするために出発する時まで、トレーニングキャンプの一切を提供してサポートする。熱烈にフランスチームを歓迎することで、選手たちは文化や地元の郷土食、日本の歴史や伝統を学ぶことになる。

学校では生徒たちが簡単なフランス語を学びながら我らが同胞を迎える準備をしている。フランスの代表たちが授業に招かれることもあるだろう。スポーツ教室、展示や実演の文化体験でのふれあいを通じて、自治体の住民たちはよりよくフランスからの来訪者を受入れる力を付けるだろう。「きっと皆が大会を通じてフランスチームの力強い応援団になるはずですよ！でもゴールはそこではなく、長い期間に渡って続く互いの関係を築くためにイベントを開催するのです。」東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部事務局の荒井陽一氏はそう語る。

この観光情報提供の目的は日本の地方自治体がフランスなどオリンピック大会に参加する国々と良好な関係を築いていくことを目的としている。ホストタウンの住民と外国人訪問者が人的な交流を重ねてそれを深めることは、2020 年までに 4000 万人の来日旅行者を迎えることを目標に掲げる日本にとっては欠かすことができない。

日本は積極的かつ継続的に「ホストタウン有志連合」のプログラムを推進し、2024 年のパリ、2028 年のロサンゼルスという次なるオリンピック開催都市にも影響を与えたい考えだ。

(2) JAPAN INFOS



Liens entre athlètes internationaux et villes du Japon
Le Japon, le plus grand terrain de sport du monde

« Host town initiative », ces mots ne vous disent peut-être rien mais c'est une opération de grande ampleur mise en place par le gouvernement japonais. Elle se développe avant les Jeux Olympiques et Paralympiques de Tōkyō 2020. Sa vocation : faire découvrir, avant, pendant et après cet événement international les richesses et populations locales à travers le sport. Un stand représentait, lors de Japan Expo 2019 début juillet, 7 villes et départements partenaires de cette initiative.

À l'orée des Jeux de 2020, ce ne sont pas moins de 414 collectivités locales qui se retrouvent concernées par cette formidable opération. Les villes hôtes (host town) accueillent dès aujourd'hui une multitude de pays (134) et de fédérations sportives à travers tout le territoire japonais. Une opération indispensable pour transformer les équipes étrangères en ambassadeurs du Japon après la fin de l'événement.

La France est le pays qui compte le plus de villes partenaires parmi les autres nations présentes aux Jeux. En effet, ce ne sont pas moins de 21 villes qui s'ouvrent aux Français pour l'échange, la connaissance et la compréhension de l'autre grâce aux valeurs du sport et de l'Olympisme inculquées par Pierre De Coubertin.

De plus, le choix de ces villes, par les différentes fédérations françaises n'est jamais dû au hasard. Nous avons appris quelques anecdotes et faits d'histoire importants lors de notre rencontre avec leurs représentants sur leur stand.

Voici un petit panorama des 7 lieux représentés sur le salon au nord de Paris :

Ville de Kanazawa (département d'Ishikawa)

Cette ville est jumelée avec Nancy depuis 1973. C'est ici que se prépare l'équipe de France d'haltérophilie aux championnats du monde à venir puis aux JO. C'est également ici que l'équipe de natation s'est installée. Les athlètes français ont pu récemment découvrir, au travers des échanges avec la population locale, les richesses du département d'Ishikawa tels que les kimono ou la cérémonie du thé.



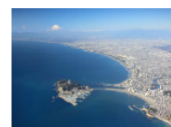
Ville de Takayama (département de Gifu)

La ville et ses plateaux en altitude sont parfaits pour l'athlétisme, c'est donc naturellement que les coureurs de l'équipe de France ont choisi ce lieu. Mehdi Baala (1500m) et Bouabdellah Tahri (3000m steeple) ont déjà pu s'y entraîner à l'occasion des championnats du Monde.

Ville de Kamakura (département de Kanagawa)

Sa position côtière sa marina font de la ville un excellent spot pour l'équipe française de voile.

Jumelée avec Nice, de nombreuses initiatives sont déjà en cours depuis 2016, notamment pour les échanges entre les habitants et aussi les sportifs avec, par exemple, des ateliers d'origami ou la découverte des activités nautiques via des stages de catamaran. Et cela ne s'arrête pas là, car les représentants locaux voient le futur avec la France car des villes comme Marseille, accueilleront les épreuves de voile aux JO de 2024.



Ville de Toyooka (département de Hyōgo)

Un environnement préservé, un accès facilité et une déclivité de moins d'un mètre sur son lac, ont su ravir l'équipe de France d'aviron. L'endroit est également propice à la récupération des athlètes puisqu'elle propose de nombreuses sources thermales, notamment à Kinosaki et ses onsen traditionnels.

Le [Français Xavier Dorfman](#), ancien champion Olympique en 2000 et actuel entraîneur de l'équipe d'aviron du Japon pour 2020, avait déjà visité le site et établit des liens avec les locaux depuis 2017.

Ville d'Himeji (Département Hyōgo)

L'histoire avec la France de la ville au célèbre château blanc est particulière puisque c'est ici qu'est né le père du Judo français :

[Mikinosuke Kawaiishi](#). C'est donc logiquement ici que l'équipe de France de Judo a choisi d'établir ses quartiers.

L'une des spécialités locales est le saké et une cousine éloignée de Kawaiishi a fusionné les deux traditions pour créer le saké [Jūdō junmai daiginjō](#).



<日本語要約>

国際的アスリートと日本の都市との結びつき

日本、世界一のスポーツの地

「ホストタウン有志連合」とはいったい何か？おそらく読者はこう考えるだろう。これは日本政府が仕掛ける大規模なオペレーションだ。東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に向けて展開を図る。その使命は：国際大会の前、中、後を通じて地域の豊かさや人々について、スポーツを通じて知ってもらふこと。こうして 2019 年 7 月初旬、ジャパンエキスポ 2019 において有志連合の 7 つの自治体がブース出展した。

2020 年のオリンピックにはまだ間があるが、414 を下らぬ数の地方自治体が集結してこの素晴らしい計画に名を連ねた。ホストタウンは現時点から既に 134 に及ぶ世界の国々と、スポーツ連盟を日本全国で受け入れる。試合が終わった後に外国チームが日本の大使となってもらふために欠かせないオペレーションだ。

大会参加国の中でフランスは日本の自治体との間で最も多くの提携市を持つ国だ。実際、少なくとも 21 の市がフランス人に向けて、スポーツの価値とピエール・ド・クーベルタン男爵が広めたオリンピズムとによって相互の交流と、認知、理解の機会を探っている。

さらに、数々のフランス連盟によってなされたこれら市町の選定は偶然によるものでは決してなく、様々な逸話や重要な史実があることをブースで面会した市町の代表たちから学んだ。

パリ北部での見本市に出展していた7か所のちょっとした展望を以下に挙げる。

・金沢市（石川県）

1973年よりナンシーと姉妹都市。金沢ではフランスの重量挙げチームが世界選手権、続いてオリンピックの事前合宿を行う。

また、競泳チームも金沢を拠点に選んだ。フランス選手は地元の人々との交流を通じて着物や茶道など石川県の豊かさを学んだ。

・高山市（岐阜県）

高山市は高原にあるため、陸上競技にとって最適な環境だ。フランス陸上チームのランナーたちはこの地を選んだ。

メーディ・バアラ（1500m走）とブアブデッラ・ターリ（3000m障害）は世界選手権に際して同地でトレーニングを行った。

・鎌倉市（神奈川県）

海岸に位置しマリナーもある鎌倉市はフランスセーリングチームにとって最適の場所だ。ニースと姉妹都市提携しており、2016年以来多くの交流イベントを行ってきている。折り紙教室や双胴船の帆走訓練を通じたマリンスポーツ体験など、市民交流とスポーツ交流を盛んに行ってきた。交流はこれにとどまらず、地元の議員たちはフランスとの将来像を描いている。マルセイユなどの都市が2024年オリンピックパリ大会でセーリング会場になる可能性があるからだ。

・豊岡市（兵庫県）

環境が保全され、坂を1m下れば湖に到達できるアクセスの良さを持つ豊岡市がフランスのボート競技チームのハートをつかんだ。当地はまたアスリートが滋養回復するのにも好適だ。周辺には城崎を筆頭に多数の温泉地と湯治の伝統がある。2000年のオリンピックチャンピオンで、現在東京2020大会へ向けてボート日本チームの監督を務めるグザヴィエ・ドーフマンも既に現地を訪れ、2017年以来地元との関係を築いてきた。

・姫路市（兵庫県）

フランスと名高い白鷺城の地、姫路市との歴史には特別なものがある。なぜなら「フランス柔道の父」川石酒造之助が当地の出身だからだ。フランス柔道チームが姫路を本拠地として選択したのは一本筋が通っている。土地の名物には酒があるが、川石師範の遠い親戚が二つの伝統を結んで「純米大吟醸 柔道」を生み出している。

・山梨県

山梨県だけでも 10 自治体がホストタウンとして登録し、またフランスとの姉妹都市交流も盛んだ。ボーン、シャルネ・レ・マコン、エヴィアン・レ・バン、シャモニー・モンブラン、セリエール、ニューイ・サンジョルジュ、ポーの各市と姉妹関係にある。

フランスのレスリング、ラグビー・セブンス、ハンドボール、フェンシング、バスケットボール、ビーチバレー、トライアスロンそして卓球が山梨で旅装を解いた。スポーツ交流に適した多くの利点を備えるが、また食卓の喜びの面でも同様だ。山梨では日本の白ワイン甲州を生産している。

・富士吉田市（山梨県）

富士山麓という特別な舞台装置をもつ当地では自然環境が保全されている。フランスラグビー連盟はまず初めに 15 人制ラグビーのチームがワールドカップで、続いてオリンピックでは新競技の 7 人制ラグビーのチームが富士吉田市を選択した。

・富士河口湖町（山梨県）

赤く染まる紅葉と富士山麓の湖でたいへんに名高い河口湖町はトライアスロンチームを受け入れる。日本のチームも同様にここをトレーニング地として選んでいる。競泳、自転車、ランを含んだマルチスポーツであるトライアスロン競技にうってつけの便利な場所だ。

（３）TIMEOUT

The screenshot shows the Timeout website interface. At the top, there's a navigation bar with 'PARIS' and 'FR' dropdowns, the 'Timeout' logo, and a link to 'INSCRIVEZ-VOUS'. Below the navigation bar is a menu with categories: 'Actualités', 'Restaurants', 'Bars', 'Art', 'Cinéma', 'Musique', 'Spectacles', 'Shopping', 'Hôtels', 'Voyage', and 'Plus'. The main content area features a large image of Mount Fuji over a cityscape. Below the image is the headline 'Un an avant les JO de Tokyo, petit panorama du sport au Japon' and a sub-headline 'Avec le projet Host Town, c'est tout le Japon qui prépare les JO 2020.' To the right of the main article is a sidebar with an advertisement for '都内のお得な宿泊研修プラン' (Affordable accommodation and training plan in Tokyo) by 'マックスパートナー' (Max Partner).

<日本語要約>

東京五輪まで一年 日本のスポーツを展望 提携記事

ホストタウン計画 国を挙げて五輪へ準備着々

ユーロ・ジャパン・クロッシング Euro Japan Crossing 提携

今週末開催され大きな盛り上がりを見せた第 20 回ジャパン・エキスポで目を引いたブースがあった。題して「ホストタウン」。コスプレでも、マンガでも、ビデオゲームでもなく、オリンピック大会のスポーツを紹介するブースだ。2024 年パリ五輪に先立ち、聖火はまず来年夏に東京で灯される。大会まであと一年。この機会に日本のスポーツ事情を見てみよう。

準備の最終年を迎えて日本各地はオリンピック・パラリンピックのモードに突入した。先頭に立つのはもちろん東京だ。日本の首都で開催される大会の主要舞台は二か所。ひとつは前回 1964 年大会を記念するヘリテージゾーン。そしてもう一つが東京湾ゾーン。東京の絶えない進化を象徴する地区だ。

日本はまた各地の「ホストタウン」イベントの準備にも余念がない。全国に散在する市町村がこれから世界中の代表団を迎え入れる。文化交流、スポーツ体験、食文化の体験などのプログラムが生まれ、長期に渡って受け入れ国との絆を深めたい考えだ。

こうした自治体は驚きの 414 を数え、うち 21 がフランス代表団を受け入れる。「ホストタウン」計画は、すでにあらゆるスポーツへ国民の強い関心呼びつつあり、成功の様相を呈している。一般に日本と聞いて多くの人が思い浮かべるのは武道との結びつきであろう。しかし日本人は実際、実に多様なスポーツに勤しんでいる。ホストタウン計画の責任者たちの言葉を借りれば、日本では余暇活動の満足度に占めるスポーツの重要性が増すばかりで、それはニュースポーツにおいて顕著なのだそう。女子テニスの大坂なおみ選手が目覚ましい活躍を見せる一方、スケートボード、サーフィン、スポーツクライミングがオリンピック種目として採用された。こうした指摘がはたして正しいのか、2020 年がまたとない実証の機会となる。

<取材の様子>



第3章 調査結果の総括

第3章 調査結果の総括

第2章「調査対象プロジェクトの実施報告」及びアンケートの集計をもとに、事業成果を分析し、事業の効果について検討するとともに、他地域、他ホストタウンへの普及・展開等に向けた課題を抽出し、今後の普及・展開へ向けた提案を記載する。

1. 成果分析の概要

(1) ブース出展

ブースの来訪者・見学者 1,076 人のうち、およそ 84%はホストタウンの取組について知らずに来訪したが、ブースを見て 85%がホストタウンの取組について「理解できた」と回答した。

短冊に願い事を書いて吊るすという「七夕」のコンセプトが来場者の興味を引いたことや、ブーススタッフの説明や通訳に関しての評価も高かった。まずは興味を持ってブースに立ち寄った見学者へホストタウンに関する簡潔で分かりやすい説明を行うことが出来た事で、海外においてホストタウンに対する認知度を高めるという当初の目的はおおむね達成できたと評価できる。

(2) ブース出展等に関する広報対応

事前の広報は JAPAN EXPO のホームページでの案内と東京等での主催者による記者向け説明会等であったが、JAPAN EXPO 自体、名称からも分かるように「日本」をテーマとした展示会であることから、もともとある程度日本に対しての関心や興味を持つ層へのアプローチとしては一定の効果があったと推測できる。

しかしながらアンケートの回答では「次回の日本行きの参考」「知らなかった都市を知ることができた」など、観光案内としての見学者も少なくなかった。

そのため、もう少し時間をかけて詳しく広報出来れば、より「ホストタウン」の取組についての理解が促進されたことと思われる。

2. 各調査対象プロジェクトの効果

(1) 自治体の展示効果

各自治体とも、フランスのホストタウンとしての取組等を紹介しつつ、地元の観光等のPRを行った。参加者からは、東京や大阪等大都市ではなく地方都市のそれぞれ良いところを知ることが出来た、行ってみたいと思った、などの意見があり、また自治体からは日本のアニメや文化に対する関心の高さや、時期的な要因もあると思われるが、ラグビーワールドカップの人気の高さを改めて知ったとの感想があった。

互いに知らなかった点に直接話をする事で気づく事ができた事は出展の効果であり、今後のホストタウン活動に役立つ事が期待される。

(2) 事業実施により達成できた目標

来場者へのアンケートを通じ、ホストタウンの取組についての認知度がまだまだ高くないこと、さらに国内ホストタウン自治体についてはほとんど知られていないことを改めて認識した。

しかしホストタウンの取組については97%近くの訪問者が「とても良い」または「良い」と答えている事から、ホストタウンの活動については大変評価が高く、さらに認知が広まればより幅広い層での交流が活性化し、継続していくことが期待できる。

(3) フランス国内、その他欧州地域への波及効果

今回の来場者の居住地で、回答のあったものはパリ市を含むイルドフランス州内からの参加者が55%を占め、その他のフランス国内からは41%、フランス国外からは3%（ベルギー、スイス、イタリア、ルクセンブルグ、イギリス）であった。

2024年のパリ大会であなたの街でもホストタウンをしてみたいかとの問いには72%の参加者が「はい」と回答し、とてもよい事だ、日仏間の交流を応援したい、という意見が多かったことからフランス国内はもとより諸外国への潜在的ニーズも伺われる。

今回の取組を踏まえ、今後のさらなる広報活動や、アスリートや人気選手などによるSNSへの書き込みなどがあればさらに波及すると思われる。

(4) 2020年東京大会を契機としたレガシー創造への寄与

ホストタウンの取組へのフランス市民の評価は大変高く、取組の内容を知ればさらに応援したい、参加したい、との声もあったことから、相互で交流に関する広報を積極的に行い市民の認知度を高めるとともに、東京大会後は市民参加の交流を活性化させるなどで、双方の市民の意識の国際化や地方の活性化といったレガシーに繋がるものと思われる。

(5) 日本国内の他ホストタウンへの普及・展開方策

今回は JAPAN EXPO という日本への関心・興味の高い参加者が集まるイベントへの出展であった為、非常に好意的で積極的な関与を思わせる意見が多かった。

フランスだけでなく、世界各地で行われる日本のアニメや物産品を紹介するイベントでの出展は同様な効果が期待出来るため、今後の活動の参考になると思われる。

また、同一国を相手国とするホストタウン自治体が共同で出展することも費用の軽減や PR 効果の高さの観点から非常に有効であるが、それぞれの自治体の特色をどのように PR するか、用意するツールや、パンフレットなどについてあらかじめ統一感をもったものにするか、共同で制作するなど検討するとさらに PR の効果が高まるものと思われる。

3. 他地域への普及・展開に向けた課題

(1) ブース出展

参加自治体にとって海外からの訪日旅行客を増やし、観光振興によって地域の発展を図る事は大きな目標であり、地域の紹介を中心とした展示を行った。

アンケートの結果から、ホストタウンの取組について理解できたし、大変よいプログラムであるとの評価が大半を占めたが、一方で観光地案内、日本文化の発信の場としての評価も大変多く、参加者にホストタウンの取組について深く理解してもらえるよう展示内容の構成を検討する余地がある。観光交流にとどまらず、市民の意識の国際化、多文化共生への理解促進などレガシー創造へ向けた取組についての展示により、参加者に興味をもってもらふ事も必要ではないかと思われる。

(2) ブース出展等に関する広報対応

今回の出展は「日本」をテーマとした展示会であった為、もともと日本に対して興味と知識をもった参加者が多かったが、ホストタウンについては「知らない」という参加者が 84%を占めた。展示会出展などのケースでは単発的に広報を行う事も必要だが、交流の参加者による SNS への発信や、在外公館による広報など、継続した発信をどのように続けるか検討する必要もあると思われる。

4. 他のホストタウンへの普及・展開に向けた提案

(1) ホストタウン自治体内での組織横断的な取組

ホストタウンの取組は、スポーツ、文化、地域経済（観光振興）、人材育成等その目指すレガシーは多岐にわたることから、自治体側にも広い範囲にわたる企画やアイデアが求められていることが想像出来る。

そのため、普及・展開には複数の部局が携わり、それぞれに現状で出来る事や、資産の共有、今後へ向けた活動の方策や広報活動等、を協議する事で、より効率的に事業を進める事が出来るのではないかと考えられる。

(2) 自治体同士の連携

他のホストタウン自治体がどの様に活動をしているのか、担当者による情報共有の場を設ける事も提案したい。海外の国とホストタウン交流を続ける上で、困難にぶつかるケースはあり、困難に対するノウハウを横展開し、異なる自治体間で共有を図ることは、今後、日本全国のホストタウン交流を活発にすることに繋がると考える。

また、ホストタウンや観光振興の取組においては、一つの自治体よりも周辺自治体と広域で連携をすることでより PR 効果や効率が高まるのではないかと、或いは公共施設を融通しあうことで施設の有効活用を進める、希少言語の通訳者の情報を共有する等、自治体間における横連携はヒントとなる事が多いと思われる。

(3) 海外への情報発信の強化

日本の自治体にとって、海外へ情報発信することは言語面などのバリアから慣れていないこともある。今回の海外でのホストタウンに関する情報発信で作成した各種ツールを活用することで、今まで海外への情報発信をしたことがない自治体にとって、有益な手がかりや前例になると思われることから、今回の情報発信ツールやアンケート結果の共有などを通じて、成果の知見の共有を図っていくことは重要と考える。（具体的な事例としては、今回の展示ツールには QR コードとして、ホストタウン情報を入れ込み、言葉が通じなくとも、携帯電話などを通じてブース来訪者が情報を得られるよう工夫を行った。）

さらに、フランスは 2024 年の大会開催国でもあり、同国との交流や関係構築は、現在ホストタウン関係を持っていない自治体にとっても大きな可能性をもたらすものと考えられる。

5. 好事例

(1) 神奈川県鎌倉市

- ・Japan Expo のホストタウン展示ブースに、フランスセーリング連盟や鎌倉市との姉妹都市であるニース市の関係者が訪問し、意見交換や交流を図った。また、展示後に実施された「かまくら国際交流フェスティバル」にはニース市から特産品が送られ、特産品を通じた市民交流に繋がった（参考資料1）。
- ・展示ブースにフランス国旗を準備し、ブースを訪問した方々にフランスセーリング代表チームへの応援メッセージを数多く記載いただき、「応援という言葉の力」をもらうことができた。さらには、その応援メッセージ国旗を日本に持ち帰った後、様々な交流機会に活用することで、Japan Expo 参加をホストタウン交流に活かすことに繋がった（参考資料2-1～4）。

参考資料1


【かまくら国際交流フェスティバル】



参考資料2-1



参考資料 2-2



鎌倉市
Katsushika City

情報提供資料

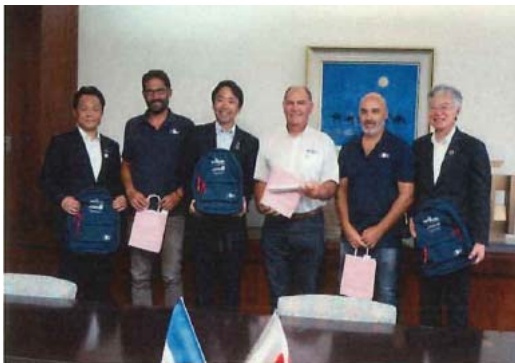
令和元年（2019年）8月9日
東京オリンピック・パラリンピック担当
担当課長 古田
電話 0467-23-3000（代表）
内線 2241

フランスセーリング連盟副会長らの市長表敬訪問について

来年のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、本市において事前キャンプを行っているフランスセーリング連盟の副会長らが、市長を表敬訪問されます。

- 1 日 時 令和元年（2019年）8月13日（火）
午後4時から午後4時30分まで
- 2 場 所 鎌倉市役所 本庁舎2階 庁議室
- 3 表敬者 フランスセーリング連盟 3名
 - ・Jean-Pierre SALOU 様
(フランスセーリング連盟副会長)
 - ・Guillaume CHIELLINO 様
(フランスセーリングチーム代表)
 - ・Lionel COTTIN 様
(フランスセーリングチーム総務担当)

参考資料 2-3



参考資料 2-4



(2) 石川県金沢市

- ・Japan Expo のホストタウン展示ブースで来場者にも書いてもらったフランス国旗への寄せ書きメッセージに、2019 年 7 月に実施した事前合宿の際に金沢市側のメッセージを付け加え、来日したフランス代表選手に見せたところ大変喜んでいた。またその寄せ書きを合宿会場に掲示することでホストタウン交流の機運が高まった。
- ・フランス・パラリンピック国内委員会を訪問したことを機に、連絡が滞っていた関係者と再びコンタクトがとれ、その後順調に交渉を行ったところ、2020 年 2 月パラ水泳競技の金沢市での事前合宿協定締結に繋がった。
- ・隣接都市である高山市と共同でブースを設置したことで、広域での地域・観光 PR になった。

(3) 山梨県

- ・出展前にメディア向けにホストタウンブースのプレスリリースを発信し、県内自治体（富士吉田市及び富士河口湖町）と一体となった取組として情報発信を図った（参考資料 1）。
- ・Japan Expo のブース出展を通じ、フランス人の日本への関心の高さを実感することができた。また、展示ブースでの説明を通して、山梨県のホストタウンの取組や魅力について PR できた。
- ・フランスからの来県者数が増加傾向にあり、今後も Japan Expo 出展の経験を活かし、フランスからのインバウンドの取組を図っていく機運の醸成につながった。

別添記事

ラグビーフランス代表チームについて紹介しているイラスト。『富士吉田市報』に掲載。

ラグビー仏代表紹介

富士吉田 ユニホームや国旗

9月10日に開幕するラグビーのワールドカップ（W杯）の日本大会に向け、富士吉田市は、市会館1階エントランスホールに市内で事前キャンプするフランス代表チームのユニフォームや国旗などの展示を行っています。7月20日でキャンプの受け入れまで50日となったことから、機運を高めていくと企画しています。

フランス代表チームのユニホームや国旗の展示は、市会館1階エントランスホールに市内で事前キャンプするフランス代表チームのユニフォームや国旗などの展示を行っています。7月20日でキャンプの受け入れまで50日となったことから、機運を高めていくと企画しています。

掲載日：2019年07月24日／地域／紙面頁026
 報道・記事・写真・イラスト等の無断複製・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社

パリで「五輪ホスト」PR

県、富士吉田市など エキスポ初出展

県と富士吉田市、富士河口湖町は、7月4〜7日にフランス・パリで開催される「五輪ホスト」PRの取組の一環として、エキスポ初出展する。県内繊維物の生地を活用して作ったフランス国旗が、エキスポ初出展する。県内繊維物の生地を活用して作ったフランス国旗が、エキスポ初出展する。

県と富士吉田市、富士河口湖町は、7月4〜7日にフランス・パリで開催される「五輪ホスト」PRの取組の一環として、エキスポ初出展する。県内繊維物の生地を活用して作ったフランス国旗が、エキスポ初出展する。

掲載日：2019年06月25日／地域／紙面頁022
 報道・記事・写真・イラスト等の無断複製・転用はお断りします。Copyright 山梨日日新聞社

(5) 山梨県富士河口湖町

○報道事例：富士河口湖町広報（2019年9月 No. 190、フランスパラトリアスロンチーム ワールドカップ事前合宿実施 8/11-15）

・フランスとの交流に関する事例をまとめた資料を用意し、展示会場でも使用（参考資料1）

・Japan Expo のホストタウン展示ブースに、フランストリアスロン連盟の強化本部長に来訪いただき友好関係を築くことに繋がった。具体的には、フランストリアスロンチームが事前合宿として、来年の2021年8月に来訪し、町民と交流をすることを引き続き調整中。

・大会延期後もフランス側と連絡を取り合っており、フランス選手やスタッフが作成した富士河口湖町を元気付ける動画のプレゼントを受け取り、町公式HPに以下リンクを掲載。

YouTube URL : <https://youtu.be/pp5uQyWJ7K8>

参考資料 1



オランダから ザ ウォークチャレンジ ジャパン 2020 (WCJ 2020) プロジェクトマネージャーが町長を表敬訪問

2020年8月～9月に開催される東京/パラリンピックの関連イベントとして、オランダのウォーカー約200名が当町においてウォークチャレンジを開催するため、プロジェクトマネージャーのピーター・ランプレフツ氏とヘル・バスタール氏が町長を表敬訪問しました。

来年8月に長崎市、嬉野市(佐賀県)、奈良市、富士河口湖町、さいたま市、東松山市(埼玉県)の6市町をウォーキングし、東京や周辺各地で開催されるパラリンピックを応援する予定で、将来的には、このウォークチャレンジを、オランダ人のみならずすべての人を対象としたイベントにしたいと考えているそうです。



フランスパトライアスロンチームが富士河口湖町で合宿を行いました!!

8月11日～15日の5日間、フランスパトライアスロンチームが8月17日(土)に開催されたITUパトライアスロンワールドカップ大会の事前合宿を行いました。

スイムの練習は町民プールを利用し、バイクの練習は西湖周辺、ランの練習は河口湖周辺などで実施いたしました。合宿中には、町民プールでのスイム公開練習の実施や役場での歓迎セレモニーで選手と町民の方との交流を深めることができました。

また、大会当日には町民の方を対象に応援ツアーを実施しました。フランスチームは町での充実した事前合宿の成果を発揮され、好成績を収められました。

いよいよ来年は、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

Fais de ton mieux (ガンバレ) ! フランスパトライアスロンチーム!!



(6) 岐阜県高山市

- ・Japan Expo のホストタウン展示ブースに訪れたフランス人から、「フランス代表の競歩選手と実際に面識があり、そのような選手が日本で事前合宿をしていることで、あらためて日本に興味を持った」、「高地トレーニング施設に関心がある」などの意見のほか、高山市の観光に関する質問を数多く受けた。来場者は高山市がフランスのホストタウンであることに、より親密感を持っていたのか、日本に行くときは寄ってみたいとの言葉が多く聞くことができた。
- ・ブース来場者から、フランス国旗へ陸上の選手への応援メッセージをいただき、高山市の合宿施設へ掲示しており、選手団が来日した時に見てもらおう予定。
- ・現地のオリンピック・パラリンピック連盟の事務所を訪問し、高山市の高地トレーニング施設についてPRできたことで、今後、アジアでの国際大会においての事前合宿地として検討いただけるきっかけとなり、今後の進展に期待。
- ・展示ブースを訪れたパリ近隣のヴァンセンヌ市の職員から高山市とのスポーツを通じた交流事業ができないか打診があり、帰国後引き続き交流事業について調整を行っ

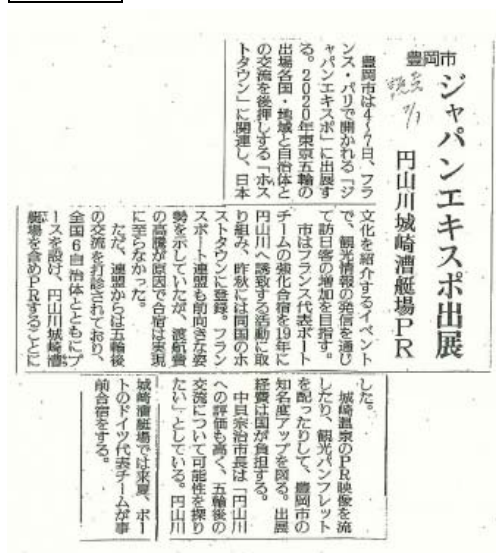
ている。

(7) 兵庫県豊岡市

○報道事例：読売新聞掲載 2019 年 7 月 3 日付（別添記事）

- ・Japan Expo の展示前後の期間に、Visit Kinosaki の Facebook ページの「いいね」数とフォロワー数が増加した。（参考資料 1）
- ・城崎について知らない人が多くいたが、温泉に興味がある人も多く、その中で城崎温泉はタトゥーがあっても入れることもあり好印象だった。
- ・ポスターを掲示したほか、写真集や映像を流した上で説明できたことにより、実際の豊岡市の風景がよく伝わり、街に興味を持った人が多かった。
- ・観光協会が作成した「うちわ」に興味を持つ人が多かったほか、温泉と和食に興味を持つ人が多かった。
- ・展示ブースに浴衣を飾ったところ、興味を持って実際に羽織ってみる方がいた。
- ・日本自体に興味がある人が多く、次の海外旅行先を探している人もおり、豊岡市に関するパンフレットを渡して説明すると興味を持ってもらえた。
- ・切り絵のポストカードに、Visit kinosaki の Facebook と Instagram のアドレスをつけることで、ページビュー数増加に繋がった（参考資料 2）

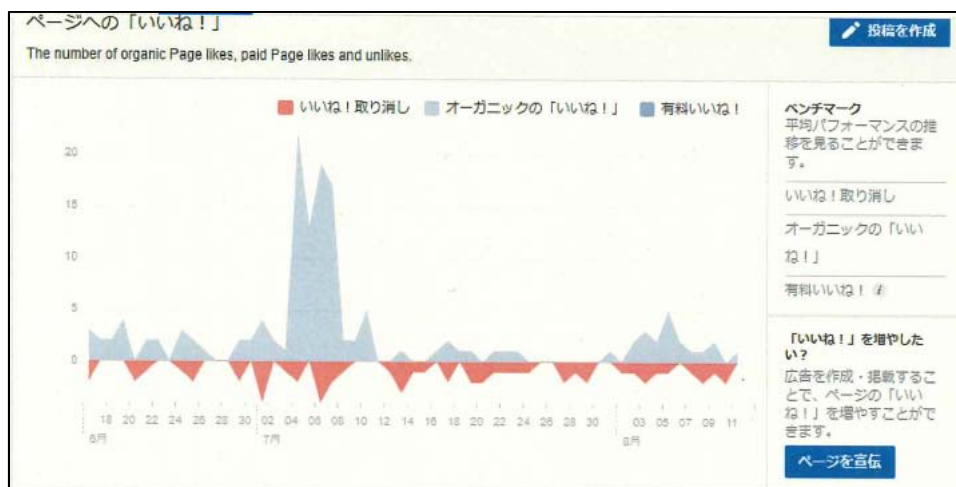
別添記事



参考資料 1



参考資料 2

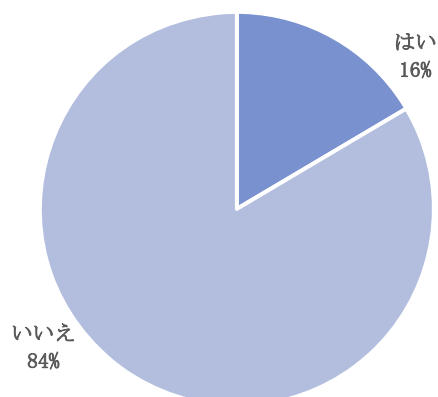


（８）自治体共通

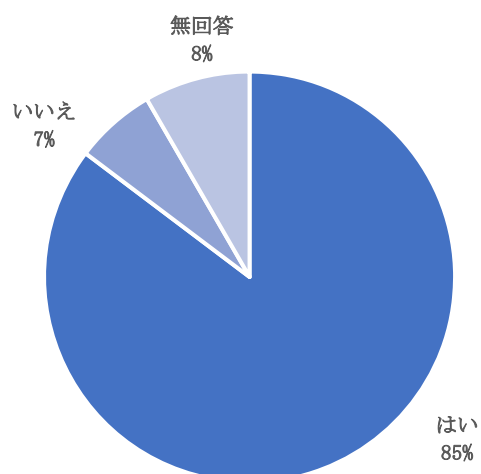
- ・展示に参加したほかのフランスのホストタウン自治体との横連携により、情報・意見交換が円滑になり、ホストタウン交流を行う上で有意義な関係構築に繋がった。
- ・フランスの自治体と関わりがある日本のホストタウンの自治体に興味があるなどの来場者の生の声を聴くことができ、ホストタウン交流を一過性で終わらせることなく、継続して実施していく重要性を感じた。
- ・フランス国内でも一大文化イベントである Japan Expo の中で、各自治体が連携してホストタウンに関する情報発信ができ、貴重な知見が得られた。
- ・ブースセットがフランスをイメージしたものになっており、見栄えが良かったほか、事前に統一的なフォーマットによりホストタウン情報をまとめてくれていたため、効果的な対外発信ができた。
- ・ブースでのフランス人との実際のやりとりを通して、フランス人が日本のどのようなことに興味・関心があるのかを知ることができ、今後ホストタウン交流において選手や関係者をお迎えする際のおもてなしのアイディアの参考になった。

<アンケート集計結果>

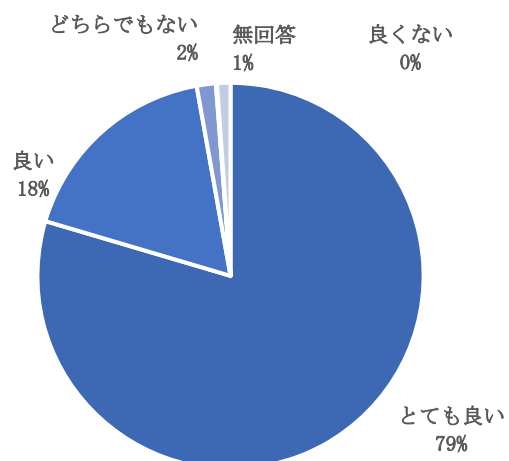
Q1. ホストタウンの取組を知っていましたか



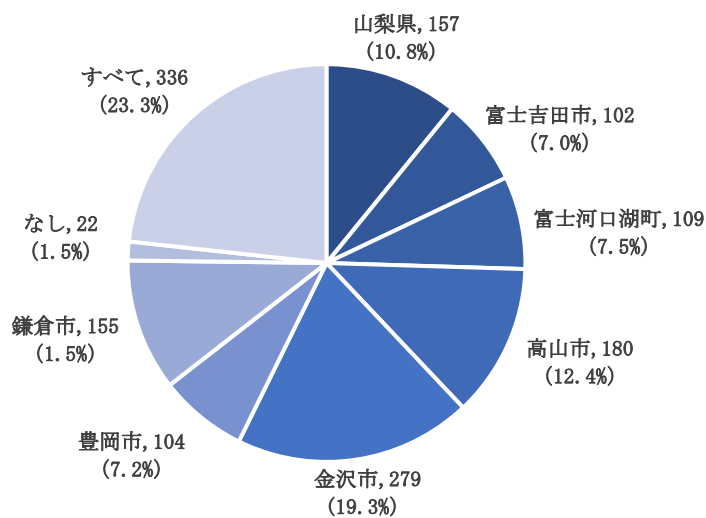
Q2. Q1 で「いいえ」と答えた方は、今回のブースを見てホストタウンの取組について理解できましたか



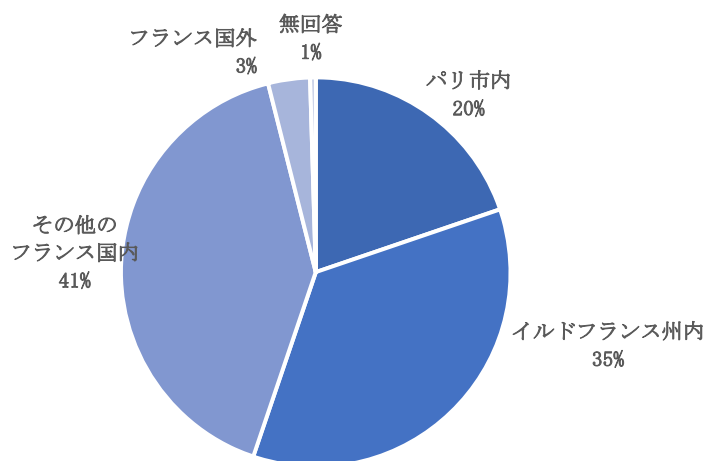
Q3. ホストタウンの取組をどう思いますか



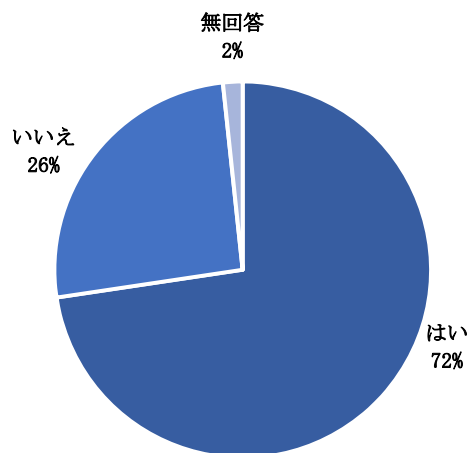
Q4. 特に印象に残った自治体はどこですか（複数回答）



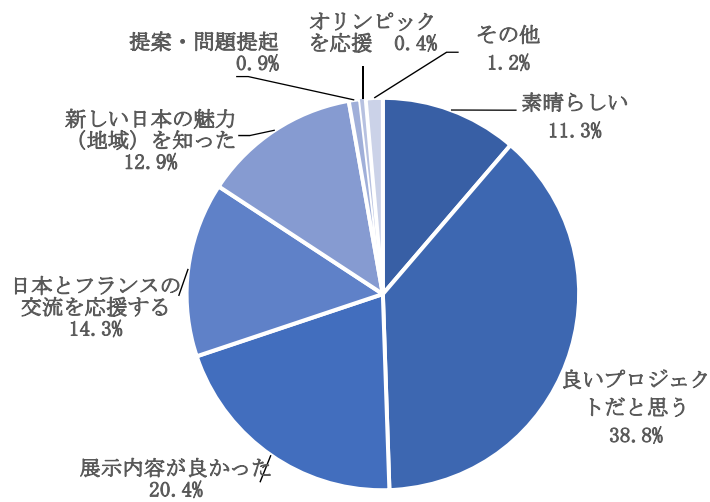
Q5. あなたの住んでいる街はどこですか



Q6. 2024 年パリ大会の際はあなたの街がホストタウンになったら良いと思いますか



Q7. ご意見・ご感想（自由回答） *回答をグループ化して集計



「素晴らしい」の回答例

完璧！
全て素晴らしい
いいね
とても感じが良い
素晴らしい
面白い
カッコいい
良い仕事
何も言うことがありません。素晴らしい
かわいい
とても素晴らしく他の国にも伝えたい

「良いプロジェクトだと思う」の回答例

とてもいい構想、アイデアだ。コンセプトが良い。
スポーツを通して新たに日本の歴史と文化、美しさを感じた。
オリンピックでよい結果をあげるためにもホストタウンはとてもよいアイデアだと思う
良いイニシアティブだ。フランスでもホストタウンが上手く行くか興味がある
このイニシアティブはとても積極的で、学ぶ所がたくさんある
私は外国語や交流が得意ではないが、ホストタウンがフランスでもあったらいいかもしれない。
勝つための応援、サポートをしているのが良い。フランスチームが集う事ができる環境。
2024年のフランスでもやると良い。
この計画は応援する価値がある。広げて皆に知ってもらいたい。
とても興味深い。助け合うことは大切であると思った。

「展示内容が良かった」の回答例

このブースとスタッフのホスピタリティは最高だった。法被がよかった。笑顔が良かった。
七夕というアイデアが良かった。
とても興味深い展示だった。
とても親切で分かりやすい説明だった。
自分の人生から一歩引いて、人生のなかで何が大切なのか、何が現実の人生の中で必要なのかをこれが考え、気づかせてくれた。同時にこれは素晴らしい文化交流だ。
色々なコーナーがあっておもしろい
ジャパンエキスポに来てくれてありがとう。
ポジティブで情緒豊かでとてもきれい。
各都市のプレゼンテーションが気に入った。
自治体と交流できてとても嬉しい。
ジャパンエキスポのサイトで紹介された記事が面白い。

「日本とフランスの交流を応援する」の回答例

日本万歳
フランス頑張れ！
このチームに幸運を
日本とフランスのとても素敵なコラボレーションだ
応援したい活動。心から応援します。
日本とフランス文化の交流にとっても良い。
2024年のオリンピックで日本側の受け入れをしたい。（メールアドレス記載）
パリに住んでいたら私もホストタウンとして参加したかった。
この計画がうまくいくように願います。
日本人と知り合いになりたいです。

「新しい日本の魅力（地域）を知った」の回答例

東京や京都のようなよく知られた街でない街を紹介したところがおもしろい。フランス人、フランスチームを「おもてなし」してくれてありがとう。
とても素晴らしい。日本の国を再発見できた。
2020年に行きたい。
それぞれの町が伝統、文化を維持してところを嬉しく思った。
まだ知られていない都市を知るのに良い。
もらったパンフレットがとても面白く自分も行って参加したくなった。
良い観光のアドバイスを受けた。
ホストタウンは知らない地域を発見するのに良いアイディア。
東京から離れているのも良い。
とても良い企画で日本に行きたくなった。

色々な違う地域があるのが良い。

もっとたくさん違う地域を知りたい。

「提案・問題提起」の回答例

このようなイベントでは情報をもっと伝える事が大切だ

アイデアはいいけれど、問題は全てのツーリズムは環境に良くないことだ

J-POP 歌手を呼んで皆の興味を持たせると良いと思う。

2020 年のオリンピックで日本の伝統を壊さなければ良いと願う。

とても良い計画だが受け入れ都市の細かな情報が必要である。

とても良いが位置を確認する日本の地図あればもっとよかった。

私にはコンセプトが分からないが、興味がある人には面白いと思う。

「その他」・「オリンピックの応援」の回答例

パリ 2024 のことについて初めて知った

また日本に行きたい。

私たちは素晴らしい日本旅行をしました。

オリンピックの成功、幸運を祈ります。

日本全国そして私も東京オリンピック 2020 年に向けて準備万端。
